



目標—指導—評価の一体化のための学習評価 小学校体育のポイント



小学校体育における学習評価について、単元の目標及び「内容のまとめりごとの評価規準」の考え方を踏まえた、評価の計画から評価の総括までの一連の流れを説明します。

単元名

マットを使った運動遊び（第2学年）

内容のまとめり

第1学年及び第2学年

B 器械・器具を使つての運動遊び



1 指導と評価のための具体的な手順

【手順1】単元の目標を設定する

単元の目標は、学習指導要領の2内容の本文を参考に設定することができる。単元の目標の語尾は、「～することができるようにする」と表記します。

単元の目標

- (1) マットを使った運動遊びの行い方を知るとともに、いろいろな方向に転がったり、手で支えての体の保持や回転をしたりして遊ぶことができるようにする。
- (2) マットを使った簡単な遊び方を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えることができるようにする。
- (3) マットを使った運動遊びに進んで取り組み、順番やきまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、場の安全に気を付けたりすることができるようにする。

【手順2】単元の目標から評価の視点を整理する

- ・児童の実態等を考慮して、学習指導要領の内容等をもとに作成します。
- ・語尾は、知識は「～している」、技能は「～できる」、思考・判断・表現は「～している」、主体的に学習に取り組む態度（健康・安全以外）「～しようとしている」、主体的に学習に取り組む態度（健康・安全）は「～している」と表記します。

(1) 本文をもとに作成します

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
マットを使った運動遊びの行い方について知っているとともに、いろいろな方向への転がり、手で支えての体の保持や回転の動きを身に付けている。	器械・器具を用いた簡単な遊び方を工夫しているとともに、考えたことを友達に伝えている。	器械・器具を使つての運動遊びの楽しさに触れることができるよう、運動遊びに進んで取り組もうとしていたり、順番やきまりを守り誰とでも仲よく運動をしようとしていたり、場や器械・器具の安全に気を付けている。

(2) 上記をさらに具体化します

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・マットを使った運動遊びの行い方を知っている。 ・マットに背中や腹などをつけていろいろな方向に転がったり、手や背中で支えて逆立ちをしたり、体を反らせたりするなどして遊ぶことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・マットを使った簡単な遊び方を選んでる。 ・友達の良い動きを見付けたら、考えたことを友達に伝えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・マットを使った運動遊びに進んで取り組もうとしている。 ・順番やきまりを守り誰とでも仲よく運動をしようとしている。 ・場の安全に<u>気を付けている。</u>

- ・「知識・技能」 ⇒ 「知識」の評価規準と「技能」の評価基準に分けて設定します。
- ・「思考・判断・表現」 ⇒ 「思考・判断」の評価規準と「表現」の評価基準に分けて設定します。
- ・「主体的に学習に取り組む態度」 ⇒ 「愛好的態度」、「公正・協力」、「責任・参画」、「共生」、「健康・安全」に分けて設定します。



【手順3】指導計画を立案します

- ・児童の実態を踏まえ、単元の目標達成に向けた指導計画を作成します。
- ・指導する内容の順序等を考慮し、無理のない計画にします。

時間	1	2	3	4	5	6
0 ↓ 4 5	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・感覚づくりの運動遊びの紹介 ・学習カードの使い方 	<ul style="list-style-type: none"> ・前転がり ・後ろ転がり ・だるま転がり ・丸太転がり ・転がり方を組み合わせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・腕支持での川跳び ・腕支持での平均台跳び ・川跳びからの腕立て横飛び越し 	<ul style="list-style-type: none"> ・さかさまになる動き ・さかさまからのブリッジ 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループでマットランド ・作ったランドをグループ間で紹介し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他のグループが作ったランドで楽しむ。 ・もっと楽しいランドになるよう工夫する。

【手順4】単元の評価基準を作成します

- ・児童の学びの姿としてより具体的な評価規準を作成します。
- ・各観点とも複数個に細分した評価規準を想定するが、順序性を示すものではありません。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①マットを使った運動遊びの行い方について、言ったり実際に動いたりしている。 ②マットに背中や腹などをつけていろいろな方向に転がって遊ぶことができる。 ③手や背中で支えて逆立ちをしたり、体を反らせたりして遊ぶことができる。	①坂道やジグザグなどの複数のコースでいろいろな方向に転がることができるような場を選んでいる。 ②腕で支えながら移動したり、逆さまになったりする動きを選んでいる。 ③友達のよい動きを見付けたり、自分で考えたりしたことを友達に伝えたり書いたりしている。	①動物の真似をして腕で支えながら移動したり、転がったりするなどの運動遊びに進んで取り組もうとしている。 ②順番やきまりを守り誰とでも仲よく運動遊びをしようとしている。 ③場の準備や片付けを友達と一緒にしようとしている。 ④場の安全に気を付けている。

【手順5】指導と評価の計画を作成します

- ・単元計画のうち、いつ、どの場面で、何をどのように見取るかの計画を立てます。
- ・指導計画の下に評価の計画を重ね合わせ、指導と評価の計画を作成します。
- ・1時間につき1～2程度の評価観点にします。

時間	1	2	3	4	5	6	
0 ↓ 4 5	オリエンテーション ・学習内容の確認 ・安全の約束の確認 ・場の準備や片付けの仕方の確認 感覚づくりの運動遊びの紹介	場の準備→準備運動（感覚づくりの運動遊び）				マットランドで楽しもう	
		ころころランド ・前転がり ・後ろ転がり ・だるま転がり ・丸太転がり	ぴよんぴよんランド ・腕支持での川跳び ・腕支持での平均台跳び	さかさまランド ・跳び箱を使って ・肋木を使って	グループでマットランドの場を作って楽しむ。 作ったランドをグループ間で紹介し合っ て楽しむ。		
		振り返り→遊びのバリエーションの紹介					
		転がり方を組み合わせる。	川跳びからの腕立て横跳び越し	さかさまからのブリッジ	他のグループが作ったランドで楽しむ。 もっと楽しいランドになるよう工夫する。 動きのバリエーションを楽しむ。		
		振り返り→整理運動→片付け					
知		② 観察・ICT	③ 観察	① 観察			
思			③ 観察・カード		① 観察	② 観察	
態	④ 観察	③ 観察		① 観察・カード	② 観察・カード		

※知：「知識・技能」 思：「思考・判断・表現」 態：「主体的に学習に取り組む態度」

【手順6】本時の展開を構想します（例：【手順5】計画の第2時）

分	●学習内容・活動（・予想される児童の反応）	指導上の留意点（○指導 □支援・配慮 ◆評価規準）
導入 2分	●場の準備をしよう。 ・グループで協力してマットを運ぶ。 ・場の配置図を見ながら、落ち着いて運搬する。	○4人組でマットを運んだり、2人組で踏切板を運んだりできるようにする。 ◆場の準備や片付けを友達と一緒にしようと

5分	<ul style="list-style-type: none"> ●感覚つくりの運動遊びをしよう。 ・グループごとにイヌ歩き、ウマ歩き、ワニ歩き、しゃくとりむし、うさぎ跳び、かえるの足打ち、ゆりかご、ブリッジをする。 	<p>している。</p> <ul style="list-style-type: none"> □準備がうまくできていない児童を指導しながら、場の準備についての知識を見取る。 ○BGMを流しながら、一つ一つの動きを丁寧に行うよう助言する。 □首、手首、腰、膝関節等のほぐしに留意する。
展開 8分	<ul style="list-style-type: none"> ●ころころランドで楽しもう。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">めあて：ころころランドでいろいろな転がり方をして楽しもう</div>	○本時のめあてを示す。
5分	<ul style="list-style-type: none"> ・基本となる転がり方をして遊ぶ。 前転がり 後ろ転がり だるま転がり 丸太転がり ・工夫した転がり方をして遊ぶ。 忍者転がり 手つなぎ転がり ○○転がり（自由なネーミングで） 	○基本となる転がり方を紹介し、一人ずつ順番に行うようにする。
5分	<ul style="list-style-type: none"> ・マットの形を変えて遊ぶ。 坂道マット ジグザグマット 正方形マット でこぼこマット 	<ul style="list-style-type: none"> ◆マットに背中や腹などをつけていろいろな方向に転がって遊ぶことができる。 □うまく転がっていない児童に行い方を助言しながら、知識の有無を見取る。 ○児童からのアイデアを拾いながら、転がり方のバリエーションを広げるようにする。 □前後の間隔や安全な転がり方に留意する。 ○児童の「楽しそう」「やりたい」を引き出し、マットの配置を変えたり、踏切板やボールなどを用いて傾斜や起伏を付けたりする。 ○自分や友達の楽しい転がり方を紹介し合えるようにする。 □工夫した楽しい転がり方を紹介する。
5分	<ul style="list-style-type: none"> ●どんな転がり方ができたかを紹介しよう。 ・○○さんは手を着いた前転がりと、手を着かない前転がりをしていた。 ・いろいろな転がり方を組み合わせて回っていた。 	○場に「○○コーナー」など名前を付けて、児童が楽しく転がるようにする。
10分	<ul style="list-style-type: none"> ●いろいろな転がり方をしてさらに楽しもう。 ・友達の行い方を真似て、いろいろな場で転がって遊ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> □苦手な児童の転がり方のバリエーションが広がるように寄り添いながら指導する。
整理 3分	<ul style="list-style-type: none"> ●学習を振り返ろう。 ・自分の活動の振り返りをする。 ・今日のキラ星さんを発表する。 	○学習カードをもとに、振り返るようにする。
2分	<ul style="list-style-type: none"> ●場の片付けをしよう。 ・役割に合わせて、場の片付けをする。 	<ul style="list-style-type: none"> □友達の動きのよいところを認め合えるように言葉がけをする。 ○友達と協力して安全に片付けるようにする。 ◆場の準備や片付けを友達と一緒にしようとしている。

2 単元の評価規準に即した児童の具体的な姿及び評価方法の例（ここでは、「知識・技能」について紹介します。）

単元の評価規準	児童の具体的な姿の例及び評価方法の例
①マットを使った運動遊びの行い方について、言ったり実際に動いたりしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・マット遊びで行っているいろいろな遊び方の特徴を言ったり書いたりしている。（観察） ・マットの上でのいろいろな遊び方をしようとしている。（観察）
②マットに背中や腹などをつけていろいろな方向に転がって遊ぶことができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・前転がり、後ろ転がり、だるま転がり、丸太転がりなどいろいろな転がり方を試し、遊んでいる。（観察・ICT）
③手や背中で支えて逆立ちしたり、体を反らせたりして遊ぶことができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・背支持倒立、壁登り倒立、補助倒立などいろいろな倒立の行い方を試し、遊んでいる。（観察） ・仰向けや倒立からのブリッジを試し、遊んでいる。（観察）

3 単元の評価規準を基にした「十分満足できる姿」の設定例

ここでは、「知識・技能」について紹介します。

- ・知識においては、運動遊びの行い方をより詳しく言ったり書いたりしている姿や、実際に正確に行っている姿で見取ることが想定されます。
- ・技能においては、連続してできる、滑らかにできる、安定してできるなど、よりよくできる姿で見取ることが想定されます。

単元の評価規準	「十分満足できる姿」の設定例
①マットを使った運動遊びの行い方について、言ったり実際に動いたりしている。	・運動遊びの行い方の留意点を友達や教師に詳しく伝えたり、カードに書いたりすることができる。
②マットに背中や腹などをつけていろいろな方向に転がって遊ぶことができる。	・いろいろな転がり方を連続して行うことができる。（何度も繰り返してできる）
③手や背中で支えて逆立ちしたり、体を反らせたりして遊ぶことができる。	・体を大きく使って倒立やブリッジを行うことができる。

4 毎時間の観点別評価の進め方

- (1) 指導と評価の重点化
 - ・本時において重点的に指導する内容を絞り、指導します。
 - ・技能や主体的に学習に取り組む態度のように、習得や活用の段階等を踏まえ一定時間置くなど、指導と評価の時期をずらして評価を行う場合もあります。
- (2) 評価後の指導の継続と再評価の重要性
 - ・単元の前半に評価の機会を設定した項目においてBまたはCであったものを、単元の終盤までにAまたはBとなるよう指導の充実を図ることが本来の評価の在り方です。単元の前半に評価したことをもってその観点の評価を確定することには留意が必要です。
 - ・指導したことがどの程度身に付いているかを評価することは、単元の途中や終盤等において指導方針の修正を図るうえで極めて重要です。
- (3) 指導と評価の計画の柔軟な運用
 - ・育成を目指す児童の姿を評価項目の視点から想起し、指導の充実につなげることは、授業改善を図るうえで重要なことです。
 - ・指導と評価の計画は、育成を目指す資質・能力と指導内容及び評価の具現化を図ることに資するものであるため、児童の実態等に応じて、適宜修正を加えながら柔軟に作成することが大切です。
- (4) 「知識・技能」の評価の考え方・進め方について
 - ・「知識・技能」では、児童が運動の楽しさや喜びを味わうことを通して、運動の行い方についての知識を習得したり動きを身に付けたりすることができているかについて、その学習状況の評価します。
 - ・知識と技能それぞれの見取り方については、低学年段階では、課題となる動きが身に付いている児童は、その運動の行い方、特に動きのこつやポイントを理解しているものとして見取ることができます。それ以外の児童については、観察や学習カードの記述等にその気付きや理解が認められる場合は知識に関する理解が得られているものと捉えることとされています。中学年以降は、技能については観察やICTを用いて見取るとともに、運動の行い方については話し合いの場面や学習カードへの記入など、その内容について「言ったり書いたり」する活動を通して、その習得状況を見取っていきます。
- (5) 「思考・判断・表現」の考え方・進め方について
 - ・思考・判断・表現の評価では、各領域の特性を踏まえ、児童が自己の課題を見付けること、自己の課題に応じて練習の仕方などを選ぶこと、思考し判断したことを言葉や文章及び動作などで表したり友達や教師などに理由を添えて伝えたりすることを評価します。
 - ・児童が自己の課題を見付けて活動を工夫できるように、活動する場、補助的な運動や練習方法、作戦例の提示等を授業で取り上げる必要がある。また、自己の課題について思考し判断したことを学習カードに書くこと、友達と話し合うこと、発表することや身振りで表現することなど、友達や教師に伝える活動を授業に取り入れていきます。
- (6) 「主体的に学習に取り組む態度」の考え方・進め方について
 - ・主体的に学習に取り組む態度の評価では、それぞれの運動が有する特性や魅力に応じて、その楽しさや喜びを味わうとともに、公正に取り組む、互いに協力する、自己の役割を果たす、仲間の考えや取組を認める、安全に留意するなどの態度を授業の中で指導しことを評価します。
 - ・実際の授業の中で、児童が積極的に取り組むための手立てを考えたり、互いに認め合うための相互評価の場面を設定したり、安全に留意する場を指導したりするなど、具体的な場面をとらえて指導します。

5 総括的評価の考え方

	第1時	第2時	第3時	第4時	第5時	第6時	総括
知		②→B	③→B	①→B			B
思			③→B		①→A	②→B	B
態	④→B	③→A		①→B	②→A		A



- ・同一の観点において、AとCが混在することは想定されていません。例えば「知識・技能」において、知識はCだが技能はAといった評価は、技能の見取りを確かとするならば知識の見取りが不確かであると想定されるため、知識の評価を再考することが検討されます。また、「思考・判断・表現」において、思考・判断はAだが表現はC（又はその逆）となった場合には、それぞれの見取りが不確かであると言わざるを得ません。さらに「主体的に学習に取り組む態度」においても、愛好的態度がCであっても、友達と助け合う姿がAなどということ（又はその逆）は考えられず、CまたはAとなった観点の見取りを再考することが想定されます。
- ・育成を目指す資質・能力の三つの柱は、目指す児童の姿とそのための指導の在り方が相互に関連しているため、総括的評価の際に全観点にAとCが混在することについても、十分に留意することが求められます。例えば、「知識・技能」がAであるような児童で、「思考・判断・表現」又は「主体的に学習に取り組む態度」がCということは、殆どの場合において想定されません。「知識・技能」が十分満足できる状況であれば、「思考・判断・表現」の様子が見取れたり、「主体的に学習に取り組む態度」がおおむね以上に身に付いていたりすることが想定されるためです。しかし、児童の状況等によってはあてはまらない場合があることも考えられるため、十分に留意することとされています。